

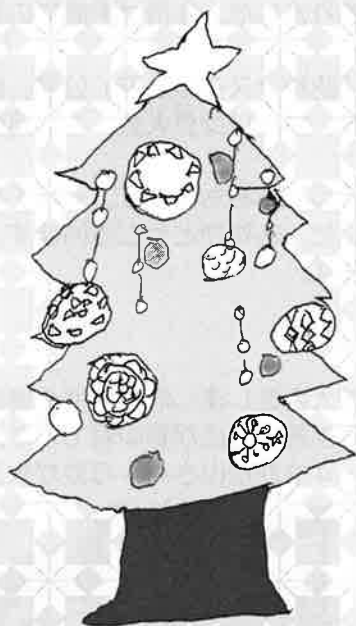
昭和48年1月13日第三種郵便認可
HSK通巻513号
発行日/2014年12月10日(毎月10日発行)
編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光
北海道白老郡白老町字萩野310-110
TEL(0144)83-3537

HSK

会報/219
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費に含む)

2014.12月号

ほほえみ



西島貴子

白老町手をつなぐ育成会

一年を振り返って

2014年ももう少しで終わります。今年1年を振り返ってみるとたくさんの出来事がありました。

新年早々に右田さんからグループホームをいただきました。そのおかげで7名が安心して住むことのできる住まいができました。

2月、歌がとっても上手な山下さんを運転手として迎えることができました。おかげで時々素晴らしい歌を聴くことが出来ます。そして3月、マイクロバスが納車になりました。おかげで朝・夕の送迎だけでなく研修や小旅行でも活躍しています。

4月、フロンティアが10年目を迎えました。今までの働き方を大きく変える施設外就労を始めました。①登別駅前北乃博物館の管理②アイヌ民族博物館の敷地内での喫茶ルーム営業③登別市民会館内での喫茶ハーモニーの営業④ナチュラルサイエンスとの業務提携により旧虎杖中学校の管理等です。利用者にとっては業務委託場所への送迎、仕事上でのトラブル等様々な山やまを乗り越えて、働くことの意味が少し深まってきた様な気がします。

5月はフロンティアの前の土地を北昭興業（株）さんよりお借りしてナチュラルサイエンス（株）さんから委託されたカレンジュラの栽培のために土地の整備をしました。日ハムの観戦にも行ってきました。6月は牛肉祭りで大変でした。7月は紙フェスティバル、療育キャンプそして白老にはちょっと大きな地震がありました。8月は函館での育成会全道大会に40人以上が参加して来ました。

9月はフロンティア登別の地鎮祭。10月は歌旅座の「昭和ノスタルジア」公演、障がい児教育講演会、そして『志金』の公募。11月は冬支度、ボーリング大会。12月はみんなが楽しみにしている忘年会とクリスマスです。

それにしても1年という月日はいろいろなことが出来るし、あるものです。今年1年、みなさんの御支援のおかげで無事に過ごすことができました。ありがとうございます。

来年も皆さんと一緒に健康で輝く1年にしたいと思います。

ボーリング大会

12月1日（月）の午後からフロンティアでボーリング大会をしました。男性の優勝は片山君と佐々木さんが同点優勝で、3位が大廻君、4位高部君、5位が野中君でした。女性の優勝は菅井さん、2位が添田さん、3位が秋保さん、4位が秋山さん、5位が大友さんでした。次の日、フロンティアで賞状が渡されました。



自前給食を始めました



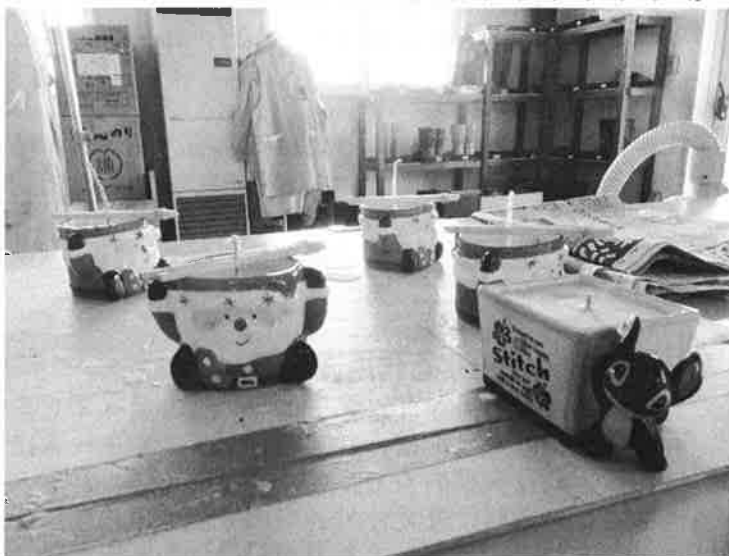
今までフロンティアの昼の給食は（有）一心さんに頼んでいました。しかし、10月末に一心さんのセンター長さんが亡くなり店仕舞してしまいました。そこで、急きょ自前で給食をすることにしました。今まで一心さんに働いていた石河さんと田淵さんに引き続いてフロンティアで働いてもらうことにしました。

メニューの大元は、日清食品（株）さんをお願いしました。主食のお米は追分の長澤さんに『ななつぼし』

を送っていただく事にしました。パンは月に2度茶連慈で作ってもらうことにしました。うどんも茶連慈で作ります。タマネギとジャガイモは壮警の南さんから仕入れます。できるだけ安く、できるだけおいしく給食を作っていきます。ちなみにフロンティアの給食費は、11月から利用者が1食250円、職員・その他が1食300円です。

ローソクづくり最盛期!!

千歳市の後援会員の山口さんから「ローソクをどんなふうに利用しているの?」と言われて、急いで考えたのが、停電時の灯りと、癒しを兼ねてのアロマキャンドルの制作でした。8時間は燃え続けていますし、持って歩けるので停電時に活躍できる優れものです。苦小牧のプチハウス、ポロト湖の喫茶リムセ、萩野の喫茶茶連慈、登別市民会館の喫茶ハーモニーで販売しています。売れ行きは好調で現在サンタのキャンドルを制作中です。



ふろんていあ♡メール

Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL

2014年12月号

〒059-0922
白老町萩野310-110
TEL・FAX0144-83-3537

フロンティア新メンバー紹介

最近新しく仲間になった皆さんを紹介します。



岩原正治さん

→
エコ班で週2回フロンティアを利用して
分解の仕事をしています。



EMって何??

1. EMとは Effective Micro organisms の略語です

有用微生物群という意味です。どんな微生物がいるかということ…
乳酸菌と酵母と光合成細菌が代表的な微生物です。光合成細菌はEMの
中心的微生物で、有害物質を浄化し、抗酸化物質を生成します。乳酸菌
や酵母と一緒にすることで、さらに活発に働きます。自然界では田んぼ
の土の中などにおいて、どぶ臭いにおいのものとなる硫化水素や有機酸を分解します。

乳酸菌は有機物を発酵する力が強く、強い酸を出すことで病原菌の繁殖を制御し
ます。人体の中にも棲んでいて、ヨーグルトやチーズ漬物などの発酵食品を作ると
きにも活躍します。

酵母は有機物を発酵する力が強く菌体にビタミンやアミノ酸を多く含んでいます。
パンのイーストをはじめワイン・ビール・味噌づくりにも欠かせません。



2. 微生物と私たち

例えば私たちの腸の中には約百兆個の微生物が棲んでいます。
500種類以上の腸内微生物のうちで有名なのはお腹の調子を整え
るいわゆる「善玉菌」の乳酸菌です。

口や鼻の中、皮膚にも「常在菌」と言われる微生物が棲んでいて
私たちの命を守っています。



3. 世の中で活躍する有用微生物

同じ微生物でも牛乳に悪玉菌が入ると腐ってしまいます。これに対して善玉菌の
乳酸菌が入ると「発酵」してヨーグルトやチーズになります。つまり有用な微生物
であるEMは発酵の力で良い方向に導いてくれるのです。

生ゴミを肥料に変えたり、河川や海の浄化をほ促進したり、安全・安心な食べ物
や環境をつくってくれるものがEMなのです！



← 蓮井邦紀さん
養鶏班で毎日頑張って
仕事をしています。



菅原美敬さん →
木曜日にエコ班で
分解の仕事をしています

エコ班職員の
竹本亮典さん



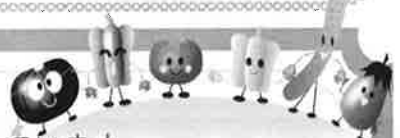
10月からお世話に
なってます竹本亮典です。
元理容師をやっていました。
早く職場になれるよう頑張ります。
よろしくお願ひいたします。

エコ班職員の高田正紀さん

はじめまして！隣まち登別本町2丁目を自宅に10月20日
からお世話になっております『高田正紀』です。
還暦を過ぎ丑年生まれの新入です。
"いつも笑顔を"心がけております。
職場ではタレントの山口智充に似て
いると？"グッさん"と呼ばれています。
これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



4. フロンティアではEMをこのように活用しています



白老町の飛生（とびう）地区で約45羽の鶏を飼育しています。

当初は鶏糞の悪臭がひどく、特に夏は採卵作業が大変でした。ところがEMと糖蜜を混ぜたEM活性液を散布すると悪臭は消え、同時に鶏も以前にも増して元気になりました。平飼いですので、敷料（家畜が横臥する場所）にはモミの他にEMボカシを用いています。

EMボカシというのはEM活性液に米糠と少しのモミ殻を混ぜ水で混合したものです。2・3ヶ月間、日の中らない30℃～40℃の場所で発酵させ、発酵を終えたら天日干しをしてサラサラ状態にします。

フロンティアの鶏糞はEMの力で発酵させた最高級の鶏糞です。しかも多くのモミを含み肥料として通気性・保湿性・保水性が抜群です。

フロンティアの畑では農薬・化学肥料を使うことなくこの鶏糞のみで、実がたわわのトマト・なすび・ピーマンが実ります。販売もしています。是非お試し下さい。

5. フロンティアではEMの販売もしております！

◎EMボカシは1袋 600g ¥300

◎EMハモミ殻完熟鶏糞は

10kg ¥300・20kg ¥500にて販売しております。

EMの活用法は広く日常生活に及んでいます。聞きたいことなどがあればお気軽にフロンティア 担当藤田までご連絡下さい。

人間を含めて生物は地球規模の循環の中で恩恵を受けて生きています。

EMをうまく活用して、深呼吸のできる生活をしましょう！



編み物サークル

毛糸に魔法をかけて作品づくり

フロンティアでいただいた毛糸を使って、ボランティアの松島さんや編み物サークルの皆さんが、とっても素敵な作品を作ってくださいました。

また、完成品の販売もやってくださり、売り上げをフロンティアに寄付して下さっていました。

作品はどれも手作りの良さが出ていて寒い冬には欠かせない温かい物ばかりです。

この冬は寒そうですので、帽子とマフラーが人気です。



育成会の活動はメリットがあるのか??

手をつなぐ育成会の会員は全国、全道で減少しています。ところによっては会員の高齢化によって無くなったところもあります。育成会はもう必要がなくなったのでしょうか。かつての障がい者と比べると障がい者の生活が大幅に改善されたのでしょうか、親や親族の悩みは無くなったのでしょうか。

きょうされんの調査によると、障がい者の56%が年金と合わせても100万円以下の年収だそうです。99%の障がい者が年収200万円以下の年収だそうです。俗に言うワーキングプアなのです。

障がい者を支援する関係者から「育成会に入ったらメリットがあるのですか」と聞われることがあります。そんな時、「今の日本で障がい者になるとどんなメリットがあるのですか」と問いかけたくなります。

今までの会は、横のつながりが強い社会で行政の支援の中で育ってきました。現在の会は、横のつながりもなくバラバラの人間関係の社会の中での活動なのです。だとしたら、亀の歩みかも知れないけれど、人間を信じる＝信じ合える人間関係を創る中での組織化しれないと思うのです。そもそも育成会とは、地域の障がい者の実態を見て、『何とかしなければ』と願った教師や医者など障がい者を取り巻く支援者達が創ってきた会なのです。障がい者の親だけが多く残ったのは、障がい者の親はわが子から逃げられないからなのです。育成会が本来の役割を果たせるようになるためには、気づいたあなたの一步が大事なのです。その一步が障がい者も健常者も暮らしやすい地域を創るのです。

後援会費の納入ありがとうございます

松倉 一男、伊藤 稔（敬称略）

暮らしの争点

12月14日 衆院選

施設を出て地域で生活を送る方向に流れが変わってきた障害者福祉。2013年4月に施行された障害者総合支援法の取り組みには、地域生活の準備を手伝う「地域移行支援」や地域生活を始めた人を支える「地域定着支援」などがある。

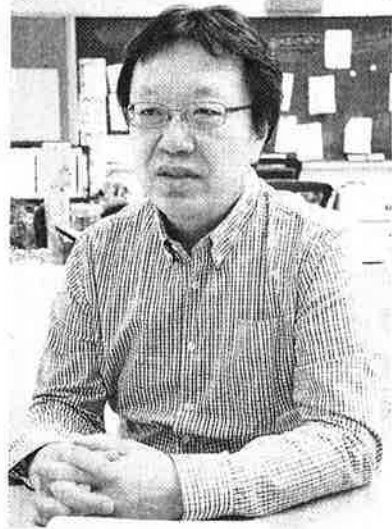
「確かに昔に比べると、障害のある人に配慮しようという意識は高まりました。しかし本当に暮らしやすくなったかという点、実態はそうとも言えません。例えば地域で暮らしたいのにその生活を支えるヘルパーの待遇は充分ではない。数も常に不足しています」

全国の居宅介護事業所約4500カ所を対象に13年に行われた調査によると、ヘルパーについて「確保されているとはいえない」と答えた事業所が41%で最多。「きわめて足りない」という回答と合わせて半数を

障害者が自立した生活を送るには？

社会福祉法人あむ 南9条通サポートセンター所長 大久保 薫さん

①



おおくほ・かおる 風連町(現名寄市)生まれ。日本福祉大(愛知)を卒業後、千歳市役所や札幌の社会福祉法人で障害者支援に従事。現在は相談支援事業などを行う「南9条通サポートセンター」の所長。札幌市基幹相談支援センターも務める。57歳。

地域で支え合う社会に

超える。

「ヘルパーは、臨機応変な対応が求められる難しい仕事。外出に同行するときも、当事者がパニック状態にならないよう段取りを事前に準備するなど細やかな配慮が欠かせません。このように高度な技術を要する職業にもかかわらず、サービスに対して支払われる報酬単価は低いのが実情です。当事者の家族は自分の死後、子どもがどう生きて

いくか不安を抱えています。しかし地域で安心して暮らせるための支援は、まだまだ不足しているのです」

地域で自立した生活を送るためには、就労も大切な要素だ。06年施行の障害者自立支援法では、職業訓練の場として就労支援事業所が設けられたが、すべての事業所が就労実績を挙げているわけではない。

「札幌など都市部では就労支援事業所が増え、選択肢が広がりました。一方、課題となってくるのが支援の質です。利用者の要望をくんだ上で就労技術を向上させる内容になっているのか、事業所に報酬が入る最小限の就労時間にとどめて利用者数を増やすなど利用者の要望に反する対応をしていないかが問われます。事業所が増え続ける中で支援の質を確保するためにも、国は事業所の指定基準のあり方を見直す必要があるの

ではないでしょうか」

障害者福祉の枠の中だけでは解決できない問題もある。65歳を迎えると障害福祉サービスから介護保険に切り替わるため、例えばこれまで利用してきた就労支援などのサービスを受けられなくなったり、負担額が増えたりするケースも出てくる。だが与党・自民党の政権公約では具体的な障害者

政策が述べられていない。

「介護保険に移行しても、希望者にはこれまでと同等の障害福祉サービスを受けられるよう配慮してほしい。ただ高齢化が進む今後は、障害福祉と介護福祉を分けた状態では立ち行かないのでは。共生社会の重要性は随所で訴えられていますが、枠組みは依然として縦割りのままです。障害の有無にかかわらず誰もが住み慣れた地域で暮らすには、多様な人々が「こちゃ混ぜ」になりながら助け合える社会が必要だと思います。各候補者には当事者やその家族、支援者の実態と想いをきちんとつかみ、共生社会に向けて具体的に実現可能な手立てを示してほしい」

(聞き手・貝沢貴子)

2年間の安倍政権で私たちの暮らしは何が変わり、何が変わらなかったのか。「障害者」「女性」「労働」「医療」「介護」「消費生活」の各テーマについて専門家たちに聞いた。

＝6回連載します



HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
発行日 2014年12月10日発行(毎月10日発行)
HSK通巻番号513号
編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
Tel 0144-83-3537
会報/219号
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価/1部100円(会費に含む)